

若手研究者インターナショナル・トレーニング・プログラム(ITP)

『地域研究のためのフィールド活用型現地語教育』

平成 22 年度派遣報告書

ベトナム・ベトナム国家大学ハノイ校、ベトナム語、(H22. Oct. 25-H23.1.30)

平成 22 年度入学

京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科

博士課程 2 回生

市村 徹也

自身の研究テーマについて

私の研究の目的は、ベトナム北部に位置する紅河デルタ内の村落において、市場経済化の結果、住民の労働や職業、信用取引なども含めた経済活動がどのように変化したかを明らかにすることです。

1986 年のドイモイ政策の発令以前のベトナムでは、労働市場は公式上存在せず、国民は統制経済の元、戸籍などに基づいて国家により合作社あるいは国営企業に配置されていました。しかしドイモイ政策の発令以降、合作社や国営企業の規模が縮小され、それに代わって市場に基づく労働市場が生まれたり自由な経済活動が認められるようになり、労働の形態や職種などの面で変化、多様化が進んでいます。ある世帯では商品作物の導入により、ある世帯では外国資本の工場で勤めることにより家計を向上させるなど、自身のおかれた環境や能力に基づき、生計手段を選択するようになりました。

本研究では、生計手段が多様化していくベトナムの一農村を例に、どのような人物がどのような経済活動をしているのか、またそのような選択を可能とした背景に何があったのかなどを、世帯調査を基に明らかにし、村落内の社会経済状況の実態を描写しようと考えています。

研修言語の概要

ベトナムには 54 の民族が居住していますが、人口の 8 割をキン族が占めています。そのキン族の言語がオーストロアジア語族モン・クメール諸語に分類されるベトナム語です。

表記にはアルファベットに声調(6 パターン)などの記号を合わせた「Quoc Ngu」を利用しますが、方言次第で同じ表記でも異なる読み方をする、単語に違いがあります。ハノイなど北部の方言が標準語です。

語学研修内容について

受け入れ機関であるベトナム国家大学ハノイ校にあるベトナム学・発展科学院においてマンツーマン形式での授業を一日 2 時間半(1 コマ 45 分を 3 コマ)、週 4 回受けました(99 日滞在、40 日受講)。

授業レベルと教科書は三段階があり、最初の授業でテストを受けその成績を基に先生と相談し、レベルと教科書を決めました。私は日常会話と簡単な文法を中心とする初級コースでの授業を受けました。授業中の使用言語は、開始当初は英語で行いましたが、2 週間目ごろから徐々にベトナム語での文法の説明が行われ、どうしてもわからない時や日程の再確認などの際を除き、最終的にはすべてベトナム語での授業となりました。

ベトナム語の文法は決して難しくはなく、発音とリスニングの能力向上に向けた会話形式の授業が行われました。私を担当してくれた 3 名の先生は教科書を進めることに熱心でしたが、会話形式で行われるため先生との心理的な距離が近く、研究に関しても、その他生活上の雑談に関しても気さくに話すことができました。

コース分けのテストの他に二度テストを受けました。初級コースには教科書が二冊あり、一冊終わるごとにテストがあり、いずれもリスニング、文法・単語に関する穴埋め、短文読解、短い文章の作文でした。

授業の日程調整は、基本的に研修開始当初に決めたままでしたが、都合によって時間の変更、キャンセルが何度かあり、多くの場合当日の早朝に携帯電話で連絡をもらう形で調整をしました。

研修期間中に印象に残った体験や経験

私を担当してくれた先生の中に、2010 年 10 月から教師になり、私のようなベトナム語初心者の授業は初めてだという先生がいました。当初先生も手探り状態で、私も発音、文法ともにひどい状態であり、先生にとって授業が大変そうでした。その先生との授業の最終日、「最初は本当に不安だった。だけど私もあなたも頑張って、ベトナム語で会話できるようになった」と言われました。語学習得の研修なので、この結果は当然のものかもしれませんが、先生の私に対する評価や思いやりにとっても感動しました。

目標の達成度や反省点について

簡単な文章の構造を理解することができ、また日常の会話でも相手が言っていることの趣旨は理解できるようになりました。インプットの面では自分が研修を始めた当初思っていた以上の成長があったと考えています。

反省点として、学校や生活上必要な場合を除いて、積極的にこちらからベトナム語を実践する機会をつくろうとしなかったことが挙げられます。その結果アウトプットの面で課題が多く残されることとなりました。相手に大雑把にしか物事を伝えられなかったり、作文の際にスペルを間違ったりするのが現状です。

また研修を開始した当初は単語が増える、会話が成立するようになるなどし、上達を感じていましたが、2ヶ月目ごろから伸び悩みを感じました。後から考えると知っている単語や文法で何とかしようと思ひ、辞書を引く、英語で確認するなどの基本的なことを怠り、外国語習得に対する姿勢の面で問題があったのではないかと、慢心していたのではないかと後悔しています。



講義を受けていたハノイ国家大学人文社会科学学院の様子
(2010年12月22日撮影)



週に二日お世話になっていたベトナム語の先生との最終講義
(2011年1月27日撮影)